

所長の部屋



所長のひとことアドバイス

大腸癌の早期発見

[2017年2月]

どの疾患でも同様ですが、まず病気にならないことが第一です。先月記載したような喫煙、過度の飲酒、肥満、運動不足、野菜不足、高脂肪食を防ぐのが大切です。次に大切なのは、病気になってしまったら、症状が出る前に、検診で病気を早期発見することです。

大腸癌検診には、通常2個の検便を提出します。検便では微量の血液を調べています。大腸に進行癌がある場合、80%ほどの頻度で便潜血が陽性になると言われています。逆の言い方をすると、大腸に進行癌があっても20%程度の人では、便潜血陰性となります。大腸進行癌があるのに、2回検便を提出して2回とも陰性の場合が $20/100 \times 20/100 = 4/100$ 、つまり4%程度は2回とも陰性になります。ましてや早期大腸癌では、もっと便潜血陰性の頻度が高くなります。従って1回でも便潜血陽性と出たら、是非とも精密検査を受けるべきです。大腸癌以外にも、大腸のポリープ、痔、炎症などがよく見つかります。

せっかく大腸癌検診を受けて陽性と出たのに、その後の精密検査を受けずに放置する方もおられるようです。一度でも検便陽性になった方は、是非とも精密検査を受けて下さい。